

特集 男性の「生き方」「働き方」

特集① 「男性にとっての男女共同参画の意義」

男性が様々な「生きづらさ」を抱えて苦悩している現在。

従来の「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という固定的な「枠組み」にとらわれるような社会は、女性ばかりでなく、男性にとっても様々な生きづらさを生み出しています。

今回は、多賀 太教授（関西大学文学部）の「さんかく塾【課題編】」での講座の中から、「男性自身の生きづらさ」と「男性にとっての男女共同参画の意義」の関連について、そのポイントを紹介します。



多賀 太 教授

生きづらさを抱えている男性たち

男性は「男が稼がなければ！支えなければ！」というように、女性とは違った意味でのプレッシャーを受けていて、それが男性自身の生きづらさにつながっています。また、そのことが巡りめぐって女性自身の生きづらさを生み出しています。

男女共同参画の理念を、男性も意識していくことで、もっと安心していきいきと暮らしていくことができます。男性にとっても男女共同参画は意義のあることなのです。

「働きすぎ」な日本人男性

世界的に見ても日本人男性の労働時間は非常に長く、仕事の責任が重くのしかかっています。働き盛りの男性は週に平均50時間働いています。また、5人に1人は週に60時間以上働いています。週に60時間以上働くと、小さな子どもがいる家庭だと、子どもが起きている時間に家に居られません。寝顔しか見られません。

もちろん労働時間だけではないのですが、長時間労働が、過労や過労死に結びつく、また、育児をしたいのにできないという状況につながります。

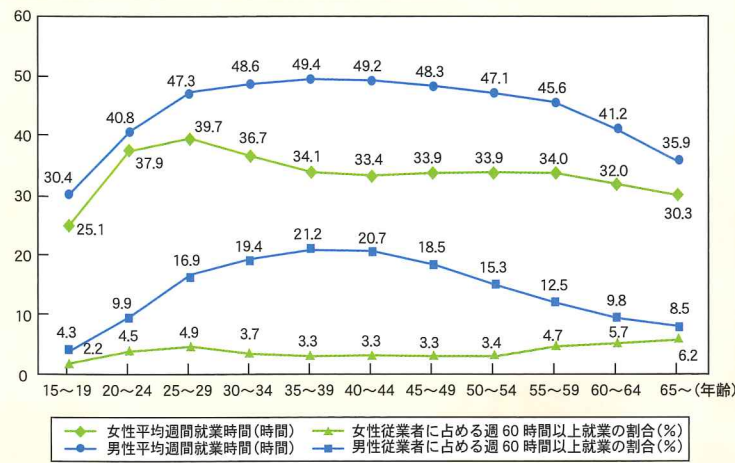
まだまだ、日本の男性は仕事中心で家事・育児の時間が少ないのですが、以前と違って、男性も仕事と家事・育児の両立に悩み始めています。家事・育児を女性任せにしても、家事や育児に参画したいと考えている男性も増えています。このようなことから、ワーク・ライフ・バランスを実現できるような環境づくりが大切になってきているのです。

今、職場の環境はどんどん厳しくなっています。かけ声だけ「ワーク・ライフ・バランス」と言われても、個人の努力だけではどうしようもない問題です。労働政策も含めた、社会が一丸となった取組が必要です。



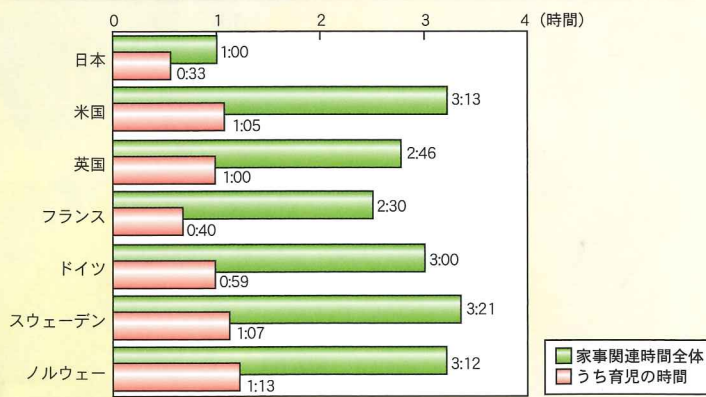
さんかく塾【課題編】より

性別年代別就業時間（非農林業）



（備考）総務省「労働力調査」（平成19年）より作成。
平成 20 年版男女共同参画白書（内閣府）より

6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間(1日当たり)



（備考）1. Eurostat「How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men」(2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S.「America Time-Use Survey Summary」(2006), 及び総務省「社会生活基本調査」(平成 18 年)より作成。
2. 日本の数値は、「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の時間である。
平成 23 年版男女共同参画白書（内閣府）より



さんかく塾【実践編】より

高齢期男性の生きづらさ

生命保険各社の営業・金融の専門家をつくるMDRT日本会が実施した調査（2006年）によると、夫の退職後に夫婦の時間が増えることに、「うれしい」は、夫の48%に対し、妻は27%、「うれしくない」は夫の16%に対し、妻は32%という結果でした。このことは、夫が仕事をしている時の夫婦の生活パターンがあまりにも違いすぎて、なかなか一緒に時間が過ごせなかったところに原因があると思われます。

また、平均寿命が女性の方が長いことから、多くの男性は、何となく、妻が自分の介護をしてくれると思ってるのではないのでしょうか。今後は、妻に先立たれたらどう生きていくのかということも、男性は考えなくてははいけません。

男性は、「若いうちから生活的に自立する」「妻と仲良くしておく」「仕事とは関係ない友達を作る」「孤立しない」「精神的なつながりを持つ」等、生活上での自立をしておくことが重要です。

今、高齢期を迎えた人々には自立への支援や、仲間作りの機会を提供することが求められています。若い世代も仕事以外の生きがいを持つことが必要となってきています。

若い男性の生きづらさ

若い男性の問題で、最も深刻なのは経済的な自立がしにくくなっていることです。「男性が一家を支える」という風土がある中で、定職に就けない男性が増えてきています。一方、若者がすぐに仕事をやめようということも大きな問題となっています。

男性を追い詰めているものは、男性に対する扶養期待であり、「男は結婚して家族を養うものだ」という空気が未だに強いということです。

若い男女の意識をみても、20代の男性は、結婚しても女性に働いてもらいたいという人が増えています。ところが、若い女性は、できれば専業主婦でいたいという人が多くなっています。

男女が仕事のことも家庭のこともしっかりと話し合い、ともに責任を分かち合うことが大切です。



男性の生きづらさの正体

男性の生きづらさの根本に共通するものは、「男性が頑張りが過ぎている」「周りも無理して頑張らせている」ということです。男性が様々な場面で中心となっている社会では、男性はしっかりしなくてははいけないというプレッシャーを受けています。

男性にとって、定職に就けて安心して一家を養うだけの稼ぎを得ることができるという時代ではなくなってきています。社会は変わってきているのに、人々の意識は昔のまま「男は仕事、女は家庭」という意識が残っています。そのギャップが男性を苦しめています。

このことから、頭を切り換えていく必要があります。男女で仕事のことも家庭のことも支え合えば、男性にとっても、女性にとっても生きやすい社会になるのではないのでしょうか。

女性も男性もいきいきと暮らせる社会へ

男女が二人で話し合っ、今の生活のスタイルを考えていく、男女がともに自立した上で、相互に支え合うという視点をもって、男女共同参画を考えていくことが、これからは必要です。そうすることで、男女の対等なパートナーシップを実現していくことができるのではないのでしょうか。

湖夢ニュータウン②

男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき!

1. 女: そろそろ結婚について真剣に考えてみない? 男: でも俺正社員じゃないし...

2. 女: 今正社員になるのは難しいかもしれないけど大丈夫! 私、結婚後も働き続けるもの!

3. 女: 家事も子育ても、一緒にやろうね! 男: もちろん!

◆平成 23 年度
さんかく塾生有志グループによる「湖夢ニュータウン」パネルより
地域での催し、研修会や懇談会の掲示にどうぞ！（全8枚）

好評貸し出し中！
詳しくは、センターHPをご覧ください！